



地域支援ネット架け橋

ニュースレター 7月号

それゆえ、あなたがたは行って

2017年7月4日 発行 No18

イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを授け、また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」

マタイによる福音書28章18節～20節

活動報告



2017年6月1日～4日、フルートとクラシックギター演奏によるコンサートとカフェを開催しました。大変好評でした。

グループ名

「J・Symphonie」

(ジェイ・サンフォニー)

以下、簡潔に報告します。

6月1日（木曜日）

会場は気仙沼市本吉町にある「介護老人保健施設はまなすの丘」でした。ここに集まる皆様は、あの震災を体験された方々です。高台に建つこの施設は1キロほど降りると海に辿り着きます。そこには震災後クリスチャンとなった女性が勤めています。その方の紹介によるコンサートを致しました。

最初は40分との約束でしたが、会場に集まった皆様からリクエストを沢山頂き1時間の演奏となりました。その後も皆様は童謡曲を口遊みながら部屋に帰っていきました。

6月2日（金）

復興庁に勤める方より、仙台市内の田子西三丁目町内会を紹介頂きました。ここは被災に遭われた方のために新しく作られた住宅街です。周囲が畑に囲まれています。ここに住む多くの方は、仙台市沿岸部に住んでいた方々です。

コンサートに集まった人数は21名で、皆様、和気藹々で互いに安否を問うていました。その中に、隣接する集合住宅に住む自治会長さんも、私たちと話をしたい事があるとのことで、参加してくださいました。

コンサートは1時間、アンコールも終わってから暫しカフェの時間を持ちました。その時、自治会長さんから話された切実な要請は、つまるところひとつ。「地域が元気になる為に協力をお願いしたい」という事でした。自治会長さんによると「外部からのアイデアによってコミュニティ形成が広がる」との事。

そもそも、コミュニティということを常に考えているのは、高齢者です。地域を支えていくであろう若者達はコミュニティ形成の必要性を理解できないでいます。いや、理解できないのではなく、生活を守る為にひたすら時間が取られているのが現実なのです。その現実を嘆きながら、自治会長さんはおっしゃいます。



コストコのロールケーキが
とても好評でみなさん
笑顔いっぱいでした♪



「震災後に集められた地域はお互いの交流を作る必要があります、また確実に高齢者が増える地域性を考えると安否を問えるコミュニティづくりは早急の課題となるのです。そこに力を貸して頂きたい」——私はこの要請を聞いて確信しました。今、私たちはこの自治会長さんと一緒に課題に取り組まなければならない。この要請は、決して「甘え」や「経済要請」ではなく、心と心向き合う為の知恵の要請である、と。

6月4日（日）

仙台市内の復興公営住宅「落合市営住宅」でのコンサートを開催致しました。この住宅団地は、東北ヘルプとしても昨年からコミュニティ支援協力をさせていただいているところです。この日、参加者は25名でした。

復興住宅地として新しく建設され、完成したのが2年前のこと。1年間は自治会が出来ず、社会福祉協議会がサポートをしていましたが、その時から応援をさせていただいておりました。特に、自治会ができた昨年より、私たちと落合市営住宅の皆様との関係は深まっています。

ここに入居されている世帯数は約97世帯で、入居されている方は南三陸町、石巻市、仙台市からの被災者のみなさんです。最初は「隣がどこから来て、どのような方が住んでいるのかが分からない」とお話をされる方が多く、不安を抱く方がほとんどでした。たくさんの月日が経ち、自治会の努力もあって、今ようやく落ち着いてきたと言えます。

今回のカフェの時間に、私たちはまた、新たな状況の変化を感じ、そして、その変化に対応した自治会の努力を知らされました。自治会の皆様は、独居高齢者と生活苦、障害をもった方との交流などの工夫が必要だと考えて、例えば次のような工夫を展開していました。

- (1) 集会所を常に開放し様々な場を用意する（ボクサーエクササイズ、卓球、裁縫など）。
- (2) 自治会会長をはじめとする相談窓口をつくり、必要に応じて支援センターや行政窓口へ同行し、住む方々の安心を得る。
- (3) 自治会から外部支援団体に要請願いを出す。

以上のような努力がある中で柔和と穏やかさが溢れる雰囲気はぐくまれているのだと思いました。その雰囲気こそ、そこに住む方々の安全と安らぎを提供しているカギになっているとお見受けしました。実際、そこに住む方々もそのようにお話をされていました。

自治会の方々は「自分たち自治会をサポートしてくれる外部団体があるので安心して地域を見ることができると、私たちに話してくださいました。「ここには、日本の将来が抱える不安の解決があるのでは・・・」と思いつつ、私はこの日、カフェで沸いたお話に聞き入っていました。

被災地を視て憶うこと

仙台に続き、南三陸町の復興建設は、石巻市や気仙沼市よりも断トツに道路だけを除き急ピッチで進んでいる。そして今年は町長選もありますが佐藤仁氏に対抗する有力な人はいない。その理由は、現町長と与党政治との密接な関係がある事です。

現首相と大臣は度々南三陸町に訪れます。石巻市、気仙沼市にも被災地があるのに何故か南三陸町への慰問を重ねます。不思議です。地元町議員の数名がお話をされます。国からの支援が大きいので意見を言うのは恐れ多い事。決定された事を町長に話し、その後町長が議員に伝える。反対や意見などをもし言ったとして、国からの援助が減らされると困ると言うのが地元の話でした。裏を取る必要はあると思いますが、南三陸町の復興事業は外部からの支援金と国からの資金で成り立っている。南三陸町の税収からは賄えないのは事実です。

私はいつも支援を考えると「調和」を意識するようにしている。つまり、調和を意識するのが町づくりや地域の基であろうと考えている。この町の行方は調和が取れているのか、それとも不調和なのか。ある方の意見は次のようでした。「自然の脅威を知ったのだから自然との調和を図った町づくりをと考える。また、老年化と人口減少の将来を考えた町づくり。この事を踏まえた町づくりは、将来豊かさを育むと考えられる。」私は福音と聖書の教えを広げるにあたり、実践の現場となる土壌の調和（御国）はもっとも大切であると考えます。ここにメスを入れる宣教を視点において活動しています。



提供：鈴木 淳

常に世の中は利権と利得によって動いています。いま南三陸町では、利権が絡む事によって経済が流れています。ひとつの出来事として南三陸町は町長側に就く事で経営も個人も安泰です。その逆に町政に反対する会社や個人は弱くなる。これも外部から行き過ぎた応援による結果です。つまり分断する。このような事は地方ではよくある話です。その連鎖で富と貧の格差が広がっている。今や町は震災前と大きく違うのです。

被災地に赴きますとこのような話を聞きながら活動を続けているのです。二ヶ月間における私の活動は、「キリシタン史跡」に関する活動と「扶助基金」運用（石巻市、南三陸町）のための活動、そして復興住宅地（仙台市と南三陸町）における「カフェイベント」、お茶会を開きそれで精一杯です。

提供：鈴木 淳



私のメインは「地域コミュニティー支援」です。地域のリーダーと連携をし「優しさと希望」を提供します。それにより、地域のリーダーは福音を理解し実践できるように努めています。

ですが6月末、南三陸町志津川で数名の方とゆっくりお話をしました。気付かされたのは、もっと時間を割きお話を訊く事が必要だと強く示されたのです。以前にも訪問を重視する事を心掛けていました。ですが、それをする

地域への貢献に力が削がれる事もあり、また私の体力にも限界があり個人宅訪問を減らしたのです。両立させたいのですが、時間・経済ともにギリギリ、いや足りない事もあり制限をかけつつ活動を続けています。

【文責 中澤竜生】

次回は「地域コミュニティー支援とは」を語ります。

東日本大震災を振り返って その2

前回のニュースレターから早くも2ヶ月が経ちました。今回も震災当時を振り返りながら私自身の備忘録としても書き残したいと思うのですが、日が経つにつれて私が以前どんな活動をしていたかを思い出すのが難しくなっているので少し焦りを感じています。それだけにあの震災以降の1日1日の情報量は膨大であったと理解しています。

あの震災が起きた日の2時46分、私は母教会にいました。すると突然、建物全体が大きく横に揺れ始め、およそ2分以上もの間激しい揺れが続きました。私はその時一緒にいた母と妹に周りの安全を確保するように言いましたが、誰もが体勢を崩さないようにその場で踏ん張ることで必死でした。唯一意識して取れた行動は階段の途中に置いてある水槽が落ちて割れないように抑えていることだけでした。建物全体がひどく軋む音、食器や本が落ち始め、ついには普段ビクともしないテレビが落ちて壊れる音を聞いた時、尋常ではないほどの大きな地響きに恐怖心でいっぱいになりました。しばらくして地震はおさまりましたが、それまで全力で踏ん張っていたこととあまりの恐怖に私は体が思うように動かせず、声も足も震えていたことをよく覚えています。あれから少し揺れを感じるたびにあの時のことを思い出してとても怖くなります。

震災当日の夜になると、停電により街灯や店頭、そして家の明かりも無い状況に陥りました。家の周辺は普段経験できない程の暗闇で、見えるものといえば星空と月明かりのみでした。また、余震も続く中で不安の声が時折近所から聞こえました。このような状況の中、家族と一緒にいられること何よりも心強いことだと感じました。

他にも、暗い中で安らぎを得られたものがありました。それは『ローソク』の明かりです。家の中が全く見えない状況でしたが、一本のローソクに火を灯すと、その火が部屋の隅々を照らした瞬間はとても安堵しました。何よりも『暖かい』と感ずることで緊張が和らいだことが記憶に残っています。また、暗闇に灯り、部屋を微かに照らした時、神様が現れてくださっていると身をもって感じました。それと同時に、『暗闇に光』という賛美を自然と口ずさんだことも、私の心が灯火の暖かさと神様の存在によって和らいだことを実感させる瞬間でした。あの時の経験を主に感謝せずにはられません。

もちろん、まだ地震の危機は消えたわけではありませんから、日頃からの備えを皆さんに強く伝えたいです。架け橋の働きは『宣証』すなわち神様と人、キリスト者と人が同じ時間の中でより良い関係を築くことで成り立ちます。今までの関わりによって強く結び合わされた関係性はどんな時でも素晴らしい働きに変換されることを期待しています。今後も架け橋の働きを続けていき、より多くの人にその働きが伝われば幸いです。 中澤義道

献金のお願い

いつも地域支援ネット架け橋の活動を覚え、ご支援とご協力いただき心より感謝申し上げます。

前回のニュースレター発行から2ヶ月が経ち、6月の活動では本ニュースレターにてご紹介いたしました「J・Symphonie」をはじめ、慶弔訪問や活動関係者の集いなど、多くの活動を行うことができました。その中で、架け橋のリーダーである中澤竜生師は、働きの中でイエス様を信じるにまだ至らない方が「これから聖書を読んでいく」と言い、「宣証」の前進とも思えるような瞬間に恵まれました。その際、これまでの活動が主によって活かされており、確かに宣証が進んでいることを実感し「今後の活動も日々祈りながら励みたい」と心を一新する機会をいただきました。

しかしながら皆様にご報告となるのですが、私たちは今後の活動に伴う重要な課題について試行錯誤している状況です。現在、働きに出るための活動費が疲弊しており、地域支援ネット架け橋の継続が難しい状況になっております。次のページにて活動費等を詳細にご報告させていただきますが、地域支援ネット架け橋が活動するために必要とされる活動費は毎月30万円です。

これまでの活動は皆様のお祈りと献金により支えられてまいりました。中澤竜生師をはじめとする私たち「架け橋」は、今後も必要されている場所へ赴き、自身の行動をもって主を証する「宣証」を継続していきたいと願っております。ご支援、ご協力くださる皆様に誠に恐縮ですが、今後も皆様おひとりおひとりのご支援とご協力を何卒お願い申し上げますとともに、「架け橋」の働きを広めて下さるようお願い致します。 中澤愛美

【7月～8月末】イベントなど今後の予定

演歌ゴスペル

藤原京子

日本人に馴染み深い歌謡曲(演歌)のメロディーで、聖書の言葉を演歌アレンジオリジナル曲で歌います。テレビ番組「ライフライン」、雑誌「百万人の福音」「恵みの雨」で特集されたこともあり、代表曲「毎日が宴会だ(歌言15章)」「JOY音頭(ネヘミヤ8:6)」は年代を問わず幅広く愛されています。



ケセラセラ、北国の春、ふるさと、みかんの咲く丘、川の流れるように、月の砂漠、コーロンバ、など



お茶とお菓子を用意しております。

日時：2017年7月12日 14:30～15:30

会場：旭ヶ丘行政区 集会所

ハワイから救世軍の青年たちがやってきました
ハワイアンお茶っこ & キッスタイム
7月18日(火曜)
 午後2:00-3:30 お茶っこタイム
 楽しいお茶のひととき・歌・お話・写真撮影もあ忘れなく
 午後4:00-5:30 キッスタイム
 晴れたら一緒に公園で遊ぼう・英語の歌とゲーム・お話・写真
みみさんをお待ちします!
 大人のみなさん 来てね～
 子供のみなさん あつぱれ～
 ハワイドリンク & フォトサービス
 会場 旭ヶ丘コミュニティセンター & SOLAスペース
 ☆参加無料☆
 主催：救世軍 協力：南三陸町志津川旭ヶ丘行政区、SOLAアーキター 中野先生牧師
 お問い合わせ・連絡先：1080-4207-5068(あいわ)

琴と太鼓のコンサート

「NPO法人シャローム」は札幌市を拠点として国内及びイスラエルなど、海外にて琴の演奏を中心とした活動を行っております。昨年6月は仙台市、南三陸町にお伺い致しました。今年は仙台市と南三陸町にお伺いして、今回も同様に琴の音色で休まる時を持って頂きたいと心から思っております。僅かな一時ですが、琴の音色を楽しんで下さい。皆様とお会いできます事を楽しみにしております。

琴演奏：高田美樹子 南谷佳子
 太鼓演奏：庄田道則



8月23日(水) 医療法人潮屋会 老人健康医療施設 はまなすの丘 午後2時～
 8月24日(木) 【予定】戸倉町宮集住宅地 集会所 10時～
 【予定】南三陸町志津川旭ヶ丘行政区 集会所 13時30分～
 8月25日(金) 仙台ベネッセ老人施設まどか鶴ヶ谷 午前10時～
 落合市宮住宅地 午後2時30分～

主催：NPO法人シャローム
 共催：東北ヘルプ、地域支援ネットあけ橋
 問合せ先：090-9422-3925(中澤)

その他、地域祭り支援（仙台2件、南三陸町2件）などを企画進行中です。

【是非覚えて下さい！】

1. 親しく交流が続く方で、入院や体調不良を訴える方が多いです。共に祈りつつ、病と向き合っています。
2. 夏祭り支援は今年で6年目となる地域があり、他も依頼を受け継続中です。夏祭り支援の始まりは、被災地の子供たちを励ますところからであって、花火の応援をしました。今年もPTAと関わりつつ花火応援をする予定です。是非ともご支援頂けると感謝です。
3. 南三陸町・登米市にはまだ仮設住宅が残っていて、いずれも住まわれている方がいる状況です。私たちは復興住宅だけでなく残る方がおられる所へ出向いて、寄り添った関わりを継続します。
4. 復興住宅におけるコミュニティ支援も継続しております。

尊いご支援を心から感謝致します。

前回繰越金：80,000円

献金収入：496,161円（2017年5月2日－2017年6月30日）

ご献金を捧げて下さった団体様および個人様（敬称省略 順不同）

日本イエスキリスト教団京都教会、基督聖協団本部、基督聖協団習志野教会、基督聖協団上田教会、基督聖協団中川教会、基督聖協団千葉教会、基督聖協団西入間教会、基督聖協団若潮教会、基督聖協団八王子教会、基督聖協団青梅教会、基督聖協団清瀬教会、新潟グレースネットチャーチ、清瀬グレースチャペル、サトウユキオ、基督聖協団信徒会、サノイズミ、船堀グレイスチャペル、基督聖協団相模原教会、ダニエルオ・フオリ・クミ、東北ヘルプ、基督聖協団若潮教会、基督聖協団美深教会、基督聖協団仙台宣教センター

献金支出：576,161円（2017年5月2日－2017年6月30日）

車両交通費120,311円（車両経費含む）、事務費、通信費15,300円、啓蒙活動費（32,670円）、ネットワークサポート、慶弔費（40,000円）、修繕費（23,215円）、茶話会(Cafe)地域／自治会コミュニティ支援費（79,000円）／追悼記念費（10,000円）、生活困窮者支援（30,000円）、雑費（25,665円）、スタッフ費（200,000円”4名分”）

次回繰越金：0円

－ 献金はこちら －

銀行名：七十七銀行 宮城町支店
口座番号：普通 5497795
名義：キリスト聖協団西仙台教会かけはし会計 中澤佳子

ゆうちょ銀行口座名義：地域支援ネット架け橋(チイキシエンネットカケハシ)
店名：二二九店(ニニキュウ)(229)
口座の記号・番号：02290-3-141031
当座：0141031

PayPal(ペイパル)を利用してクレジットカードの支払いができます。

*これにより海外より応援して頂く事も可能です。

PayPal検索用アドレス：yoshiko.n36@gmail.com

事務局：地域支援ネット架け橋
所在：宮城県仙台市青葉区愛子東3-14-22
電話：090-1069-3925

